

 <b>水道ホットニュース</b>	<p>(財)水道技術研究センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル2F TEL 03-3597-0214, FAX 03-3597-0215 E-mail <a href="mailto:Hjwrchot@jwrc-net.or.jp">Hjwrchot@jwrc-net.or.jp</a> URL <a href="http://www.jwrc-net.or.jp">http://www.jwrc-net.or.jp</a></p>
---	---

## 水事業体パートナーシップ (WOPs) などについて (その3)

### 6. WaterLinks について

(訳注) 2008年8月19日、アジア開発銀行 (ADB)、国際水協会 (IWA) 及び米国国際開発庁 (USAID) の三者は、WOPs 及び WaterLinks 等の取組みについて覚書 (Memorandum of Understanding) を締結した。以下に、USAID の記者発表資料及び ADB ホームページから、その概要—仮訳—を紹介する。

アジアの人々に安全な飲料水と衛生設備の利用を加速するための WaterLinks に関する協定に調印  
2008年8月19日 (火)

本日、「世界水週間」の場において、USAID、IWA 及び ADB は、WOPs (水事業体パートナーシップ) を立ち上げるための取組みについて調整、促進、提携を行うことにより、清潔な飲料水と衛生設備をアジア地域に提供することを手助けしようとする「WaterLinks」と呼ばれるアジアにおけるパートナーシップを設立するための協定に調印した。WOPs は、同様の課題に対処している他の事業体と解決策を求める水事業体が一組となる (pairing)、又は一対となる (twinning) ことにより、世界の多くの地方でその価値を証明している。これらの組み合わせ (twinning) の手配は、受入水事業体 (recipient water operators) の効率及び能力を改善することを手助けし、その結果、安全な飲料水と衛生設備をより多くの人々が利用できるようになっている。

WOPs の背後にある理論的根拠 (rationale) は、水・衛生サービスの改善可能性は公営が 90% である事業体にかかっていることにある。国連「水と衛生に関する諮問委員会」は、2006年橋本アクションプランにおいて、相互支援及び非営利ベースに基づいた水事業体間の協力の組織だったプログラムとして、WOPs の展開を提案した。WOPs に関連した活動を促進・調整することについての国連事務総長からの命令を受け、国連人間居住計画 (UN-HABITAT) はグローバル WOPs アライアンスセンターを設立し、WOPs のための地域パートナーシップ・ネットワークを設立する必要性を確認した。

WaterLinks に関する協定は、以下を通じて、WOPs イニシアティブを支援するものである。

- \* 専門家派遣水事業体 (expert water operators) と、アジアの事業体及び水・衛生事業に係る地方自治体との間における 2 事業体間パートナーシップ (twinning partnerships) を仲介・助長すること。
- \* ワークショップ、会議及びトレーニング行事といった水事業体の能力開発活動を計画すること。
- \* WOPイニシアティブ及び最優良事例 (best practices) に関する知識ハブウェブポータル ([www.waterlinks.org](http://www.waterlinks.org)) を開発・維持すること。ポータルは、WOPの手引き、トレーニング、ツールキット及びその他の能力開発の材料、そして、パートナーによって計画されたWOP関連の予定行事を収集・普及するものである。

(出典) USAID 記者発表資料 (2008 年 8 月 19 日)

[http://www.usaid.gov/rdma/articles/press\\_release\\_283.html](http://www.usaid.gov/rdma/articles/press_release_283.html)

一方、2007 年、ADB は、アジアの水道事業者が技術から財政に至る様々な業務遂行面での改善を図るため、ADB 独自の WOPs プログラムを立ち上げた。2008 年、ADB は、2008 年ストックホルム世界水週間において立ち上げられた WaterLinks の設立を支援した。

WaterLinks は、安全な水と衛生設備の利用の拡大又は改善及び能力の向上の見地から確実な成果を得るため、以下の 3 つの主要な活動を展開・実施するものである。

- \* 2 事業者間のパートナーシップ活動 (Twinning Activities)
- \* 地域の能力開発 (Regional Capacity Building)
- \* 情報の共有及びネットワーク化 (Information Sharing and Networking)

(出典) <http://www.adb.org/Water/waterlinks/>

(参考) ADB, IWA 及び USAID の覚書 (2008 年 8 月 19 日)

<http://www.adb.org/Water/updates/pdf/CS28-MOU.pdf>

(参考) 米国国際開発庁 (USAID) について

<http://tokyo.usembassy.gov/j/info/tinfoj-usaid.html>

(参考) USAID の「ECO-Asia」について

[http://www.usaid.gov/rdma/documents/ECO-Asia\\_Sustainable\\_Water\\_FINAL\\_20061030\\_508.pdf](http://www.usaid.gov/rdma/documents/ECO-Asia_Sustainable_Water_FINAL_20061030_508.pdf)

## 7. 2009 WaterLinks Forum について

2009 年 9 月 28 日から 9 月 30 日にかけて、タイ、バンコクにて 2009 WaterLinks Forum が開催された。本フォーラムは、IWA、ADB、USAID の主催のもと今回初めて開催され、特に 2 事業者間のパートナーシップ (Twinning) に主眼が置かれていた。

当センターから 2 名 (有村研究員、小宮山研究員) が参加してきたので、会議の内容について報告する。

### (1) 会議の概要

#### ① 会議名

2009 WaterLinks Forum “Promoting Effective Water Operators Partnerships in Asia”

#### ② 目的

- －WaterLinks の活動に対する認識向上と関心の創出
- －事業者間パートナーシップの利益促進
- －効果的な事業者間のパートナーシップのための、キーとなる要素と事前要求事項の調査
- －より多くの事業者と支援者へのアタック

#### ③ 参加者

アジアを中心とした各国から集まった参加者は、約 29 カ国から 160 名であり、国別では、開催国のタイ、中国、フィリピンからの参加者が 10 数名と多かった。日本からは水道技術研究センターの他、日本水道協会、水道事業者、国際協力機構 (JICA)、日本水フォーラムから 12 名の参加があった。

#### ④ 展示ブース

会議に併設して展示ブースが設置され、12 団体が出展した。各国の事業者のほか、IWA や PUB (シンガポール公益事業庁)、K-Water (韓国水資源公社) などが、各団体の Twinning の取り組

みを紹介していた。日本からは、日本水道協会がブースを設置し、国内の事業者がこれまでに行ってきた国際協力の実績や、JICAによる活動実績の紹介を行った。

## (2) 会議の内容

### 【第1日目 (9月28日)】

1日目は、WaterLinksにおける各団体（IWAやADBなど）の取り組み紹介と、レセプションが開かれた。IWAのプレゼンテーションでは、WOPsにおいてパートナーシップを結んでから、初期の段階（1年以内）においては信頼関係の構築などが重要であり、それ以降は目的の明確化やインプット及びアウトプットの定義が重要であることが述べられた。

ADBからは、日本政府の資金援助（Japan Special Fund）の協力に対する感謝の言葉があった。

### 【第2日目 (9月29日)】

2日目の午前中は、これまでに進められてきた2事業者間のパートナーシップ（Twinning）のケーススタディの報告があった（表1を参照）。USAIDのアジア担当組織であるECO-Asia

（Environmental Cooperation -Asia）の報告によると、現在15のTwinningが進行中であり、その多くがAsia-Asia間のTwinningである。ケーススタディ報告の中では、特に2事業者間におけるパートナーシップ原則の適用方法、安全な水へのアクセスを可能としたパートナーシップの成功要因や知見について事例紹介が行われた。

ケーススタディの一例として、表1に示すTwinningの紹介があった。この中から、具体的なケーススタディとして、City West Water（オーストラリア）とMetropolitan Cebu Water District（フィリピン）の事例を紹介する。

Metropolitan Cebu Water DistrictとCity West Waterのパートナーシップは2008年に結ばれ、無収水の低減を主な目的としている。受入水事業者（Recipient：レシピエント）のMetropolitan Cebu Water Districtはフィリピンのセブ市を給水エリアとし、無収水率が高いという問題を抱えていた。専門家派遣水事業者（Mentor：メンター）側のCity West Waterはオーストラリアのビクトリア州（首都メルボルン）を給水エリアとして、無収水率8.8%であった。Twinningを進めることで、受入側（Recipient）のMetropolitan Cebu Water Districtにおいては、スタッフのスキル向上やシステムの変換といった結果が得られ、派遣側（Mentor）のCity West Waterにおいては、スタッフ育成の機会、知識の共有、社会貢献による充足感などを得ることができた。具体的にはMetropolitan Cebu Water Districtにおいて、パイロットエリアにおいて無収水率が39%から12%（2009年1月現在）まで減少する効果が得られた。

表1 進行中の2事業者間活動（Twinning）

専門家派遣水事業者（Mentor）	受入水事業者（Recipient）
Indah Water Konsortium（マレーシア）	URENCO, ハロング市（ベトナム） メダン市水道公社（インドネシア）
City West Water（オーストラリア）	Metropolitan Cebu Water District（フィリピン）
ジャムシェドプール公益サービス会社（インド）	全国上下水道庁（スリランカ）
首都圏上下水道システム（フィリピン）	Yancheng China Water Company（中国） ダナン水道公社（ベトナム） メダン市水道公社（インドネシア）
Vitens Evides International（オランダ）	ダナン水道公社（ベトナム）
Ranhill Utilities（マレーシア）	タイ国地方水道公社（タイ）

(参考) Indah Water Konsortium について

<http://www.iwk.com.my/>

(参考) City West Water について

<http://www.citywestwater.com.au/>

(参考) メトロセブ水道区について

<http://www.mcwd.gov.ph/>

(参考) ジヤムシェドプール公益サービス会社について

<http://www.juscoltd.com/>

(参考) 全国上下水道庁 (スリランカ) について

<http://www.waterboard.lk/>

(参考) 首都圏上下水道システム (MWSS) (フィリピン) について

<http://www.mwss.gov.ph/>

(参考) Vitens Evides International (オランダ) について

<http://www.vitens.nl/>

(参考) Ranhill Utilities について

<http://www.ranhill.com.my/index.asp>

(参考) Provincial Waterworks Authority (PWA) (タイ) について

<http://en.pwa.co.th/>

また、午前中の最後には、以下の4件の新しい2事業体間パートナーシップ (Twinning) が発表され (表2を参照)、調印式が行われた。引き続き表彰が行われ、女性賞 (Woman's Award) として、タイ国地方水道公社 (PWA) から、Saowanee Khuntong 氏が受賞した。

表2 新たに発表された2事業体間活動 (Twinning)

	専門家派遣水事業体 (Mentor)	受入水事業体 (Recipient)	事業内容 (Project)
1	マニラウォーター (フィリピン)	スラバヤ市水道公社 (インドネシア)	スラバヤにおける都市貧困層への給水サービス拡大
2	Indah Water Konsortium (マレーシア)	ダバオ市水道区 (フィリピン)	ダバオにおける汚水処理サービスの向上
3	Environmental Protection Authority with Chia Nan University (台湾)	タイ国下水道公社 (タイ)	タイ全域における表層人工湿地による汚水浄化サービスの強化
4	K - Water (韓国)	タイ国地方水道公社 (タイ)	Khon Kaen における水質管理の強化

午後は、フォーラム参加者が8つのラウンドテーブルに分かれ、グループディスカッションを実施した。「効果的なパートナーシップの発展への挑戦」、「パートナーとファシリテーターの役割と責任」などのトピックのもと、「実りあるパートナーシップ構築のための要素は何か」、「パートナーシップに信頼と責任を構築するための鍵となるアプローチ・手段は何か」、「WOPsにより専門家派遣水事業体 (Mentor) 及び受入水事業体 (Recipient) は何を得られるか」、などの課題について活発な討議を行った。約1時間のディスカッションの後、各グループから報告を行いその成果を共有した。

(参考) マニラウォーターについて

<http://www.manilawater.com/>

(参考) スラバヤ市水道公社について

<http://www.pdam-sby.go.id/>

(参考) ダバオ市水道区について

<http://www.davao-water.gov.ph/>

(参考) K - Water について

<http://english.kwater.or.kr/>

### 【第3日目 (9月30日)】

最終日の3日目は、午前中は、ネットワーキングミーティングが開催された。会場では、横浜市水道局を含む10の専門家派遣水事業体 (Mentor) (表3を参照) のミーティングコーナーが設置され、複数の受入水事業体 (Recipient) が個別に各20分間のミーティングを行う機会が設けられた。ミーティングでは、お互いの事業を紹介し合い、将来の協力の可能性を探る意見交換が行われた。限られた時間ではあったが、全体で30組以上のミーティングが順次行われ、お互いに顔を合わせた意見交換は今後に向けて大変有意義なものであったとの声があった。

表3 ネットワーキングミーティング参加の10のメンター事業体 (Mentor)

	事業体名		事業体名
1	City West Water (オーストラリア)	6	Penang Water Supply Corporation (マレーシア)
2	Indah Water Konsortium (マレーシア)	7	シンガポール公益事業庁 (シンガポール)
3	K - Water (韓国)	8	Ranhill Utilities (マレーシア)
4	Macau Water Supply Company (マカオ)	9	Vitens Evides International 社 (オランダ)
5	マニラウォーター (フィリピン)	10	横浜市水道局 (日本)

(参考) Macau Water Supply Company について

<http://www.macaowater.com/index.asp>

(参考) Penang Water Supply Corporation について

<http://www.pba.com.my/>

(参考) シンガポール公益事業庁について

<http://www.pub.gov.sg/Pages/default.aspx>

午後は、今後の活動の予定と今回の WaterLinks Forum の最終のまとめが行われた。

ADB、IWA、USAID、UN-HABITAT からそれぞれプレゼンテーションが行われ、その中では WOPs 活動をより効果的に展開していくために、新たな事業体ネットワーク (WUN) の設立

(EAWUN: 中国城鎮供水排水協会が協力、PAWUN: Pacific Water and Wastewater Association が協力) や、その活動の支援、2 事業体間パートナーシップ (Twinning) プログラムの充実として、ミレニアム開発目標 (MDGs) 実現のための新しいイニシアティブや無収水 (NRW) 低減のためのプログラムの設置を予定しているとの表明があった。さらに、現在15ある Twinning を20まで増やすことを目指していくこと、WOPs の活動を通じて、現在の受入水事業体 (Recipient) の専門



性を高めていくことで将来の専門家派遣水事業体（Mentor）となるよう目指すこと、実現可能性のある目標設定により具体的な成果を出し続けることなどがあげられた。

また、WaterLinks の運営をより向上させていく手段として、Twinning をアレンジするファシリテーター側の機能を充実させていくことや、知識ハブウェブポータルとしての Web ページで実行中の Twinning の活動状況を紹介することを通じて、Twinning における課題や解決策の共有を進めていくことなどが述べられた。

会議の最後には、WaterLinks の事務局 3 団体の代表から、このフォーラムは一つのきっかけにすぎないが、いままでにない新しい枠組みを提供することができたと考えていること、2 つの事業体のパートナーシップ形成により、多くの人々のより良い生活、新しい生活が実現される可能性があること、今後の活動により多くのパートナーの積極的な参加に対する期待が述べられ、参加者からの拍手の中、第 1 回 Water Links Forum は閉会した。

### (3) おわりに

今回 3 日間のフォーラムに参加し、日本の参画への期待の高さを非常に強く感じた。現時点では、WaterLinks の枠組みにおいては日本の事業体に参加する 2 事業体間パートナーシップ (Twinning) はないが、各国からの参加者と意見交換をする中でこうした期待の声が聞かれるのは、日本の水道と、これまで日本の事業体が JICA の技術協力プロジェクトなどにより行ってきた国際貢献が一定の評価をされている証であると考えられる。一方で、今回の会議を通じて、ADB、IWA、USAID をはじめとした海外機関の存在感が際立っていたことも事実であった。

次回開催は、2010 年 6 月頃を予定しているとのことであり、今後も引き続き WaterLinks の動向について情報の収集・発信をするとともに、関係者の皆様方からも関連情報についてご提供いただけると幸いである。

(文責) センター常務理事兼技監	安藤 茂
〃 調査事業部研究員	有村 良一
〃 〃	小宮山 徹

---

#### 配信先変更のご連絡等について

「JWRC 水道ホットニュース」配信先の変更・追加・停止、その他ご意見、ご要望等がございましたら、会員様名、担当者様名、所属名、連絡先電話番号をご記入の上、下記まで E-メールにてご連絡をお願いいたします。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル2F (財)水道技術研究センター ホットニュース担当

E-MAIL : [jwrchot@jwrc-net.or.jp](mailto:jwrchot@jwrc-net.or.jp)

TEL 03-3597-0214 FAX 03-3597-0215

また、ご連絡いただいた個人情報は、当センターからのお知らせの配信業務以外には一切使用いたしません。

#### 水道ホットニュースのバックナンバーについて

水道ホットニュースのバックナンバー（第58号以降）は、下記アドレスでご覧になれます。

<http://www.jwrc-net.or.jp/hotnews/hotnews-h21.html>